

女性部活動交流会議

女性部だより

年金者組合
京都府本部
女性部発行
2024年
4月15日発行
(第198号)



支部女性部会活動交流会議が、3月13日と14日に開かれ、仲間増やしや日頃の悩みについて話し合いました。今回は北部、中南部、京都市内の3つのブロックに分けたので、ゆつくりと時間をとって話し合うことができました。

北部

13日は西舞鶴交流センターで丹後、舞鶴2名、福知山、府本部2名の合わせて6人が出席、加入まもない方も参加して、「女性部？」とか「組合は何歳から加入？」とか「働いている間は手当てでまかされて、年金になって初めて基本給が大切と知った」「1人では食べていけない。遺族年金の制度学習したい」など初々しく良い交流ができました。



北部の集会

を毎月、コーナーで知らせ返していく計画が報告されました。福知山からは役員の若返りの努力をしつつ、死ぬまで身近な腹を割ったつながりを大切にしていきたい、そのためにも自分の地域で仲間を増やしたいと、

新サークルや確定申告相談、年金宣伝などの経験が出されました。丹後では、6つの班がそれぞれ山歩きや滝めぐり、蕎麦ランチ、おしゃべり会などをとりくみ、女性部での80歳以上の方へのプレゼントづくり(配布は新聞ルート)が発言されました。



南部の集会で紹介されたお誕生日プレゼントの一部

中南部

14日は教文センターで亀岡、向日2人、長岡京、宇治久御山、綴喜、相楽2人、本部4人の合わせて12人が参加して活動の経験交流をしました。

どの支部も高齢化がすすみ集まるためには車が必要だけれども運転できる人が限られるので難しくなっています。しかし、それだからこそ、みんなの顔が見えるような機関紙づくりをしたい、たくさん女性の性を紙面に載せている、またその期待にこたえて書き手が増えていくというのが印象的でした。書けないという人へは役員が訪ねていき聞き取りをしたところ、引き揚げのこと、ヒロシマ原爆のこと、自身の赤裸々な生き方などとても読みごたえのある内容になって評判がいいそうです。また、お誕生月の方に1ページの半分を書いてもらうという方法も出されました。また、よく取り組まれているのがお誕生日プレゼントです。お金がないので豪華には出来ないけれど、お菓子や百

全国女性部総会

3月7、8日東京で全国女性部総会がもたれ、27府県（北海道や沖縄）から35名が参加。杉沢委員長が「ジェンダー差別の最たる女性の低年金」とあいさつ、中川女性部長の基調報告をうけて

交流。県女性部のつどいや学習会の発言が多く出たが、各支部でのとりくみにしていく方向性が必要ではないかと思われました。女性は組合員比54%、役員比率23・7%、女性部の意義もくりかえし考えていきたいもの

です。お土産に3月8日付東京新聞（すばらしいジェンダー問題特集）を買いました。世界女性デーに合わせて1面で男女賃金差別ほか駅トイレ数に男女格差など掲載されています。（粟倉）



均で選んだものにお便りを添えたり、手作り品や絵手紙、折り紙、年に何回かに分けてお誕生会など本当に工夫されています。さらに女性部主催で原発学習会を開く、行政に補聴器の助成を交渉したという支部もありました。高齢化を止め、活動の活性化を図るには若い世代の組合員を増やすしかありません。女性のおしゃべり力を生かしてつながり、仲間増やしに取り組みしましょう。

残念ながら欠席された支部は、次回はぜひご出席ください。市内支部は昨年11月15日に行いました。



中南部の集会

母連 近畿ブロック学習会

3月24日、近畿ブロック母親運動学習会が教文センターで開かれ、府本部女性部も全員が参加しました。

全体会は「戦争あかん！世界が1つになるために」という関西学院大学富田先生の講演です。とてもわかりやすく確信の持てるお話しで、もっと聞いていたと思います。国連無力論がマスコミで流されている中で4つの不可逆の流れ（民主主義、法の支配、抑止力批判、国際紛争の

平和的解決）の広がり、その中で女性が果たしている役割、すばらしい。世界が追いついてきている日本憲法を本当に守り実現するためにはがんばりたいものです。

午後、みんなで分担して私は平和の分科会へ。安保3文書の危険な中身、国民1人当たり43万円以上の負担になり年金はじめ社会保障はむちゃくちゃになることを学び討論しました。（粟倉）

5月号に続く

伊手推しの風景

舞鶴の明倫校

先日、所用で舞鶴へ行きました。

街中に入り、すぐ目に入ったのが、学校のような建物をぐるりと囲む瓦屋根の白い土塀です。高さは3メートルくらいでしょうか、とても重厚で上品です。立派な門もあり、説明板によると、建物は舞鶴市立明倫小学校、正門と塀は藩校の遺構を移築したもので、正門は舞鶴市指定有形文化財とあります。すぐそばは田辺城跡。舞鶴の方には見慣れた眺めですが、よそから来た私にとっては本当に美しい風景でした。（矢吹）